

令和 2 年 5 月 7 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02697

研究課題名（和文）分散形態論に基づく形容詞化現象の実証的研究

研究課題名（英文）Empirical Studies on Adjectivization Based on Distributed Morphology

研究代表者

森田 順也（MORITA, JUNYA）

金城学院大学・文学部・教授

研究者番号：20200420

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、英語の種々の形容詞化表現を規則的に生成するメカニズムを明らかにすることによって、形態的機構の仕組み及び統語的機構との相互関係を解明することにある。日英語の形容詞派生語及び複合語に関する広範な事実観察に基づき、両言語の共通点・相違点を分類した上で、形容詞化システムの妥当なモデルを提案する。「適正に分配された語形成」のモデル。各タイプの意味的・形態的・統語的情報は各々の関連した文法モジュールに最適に分配される、「動的語形成理論」。統語的・談話的環境で複雑語を生産的に作る創造的語形成は、形態統語的操作の制限を緩和し形態論的可能性を拡大させる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、子供による言語の獲得、とりわけ語彙の獲得の説明。子供が短期間に大量の語を獲得できるのはなぜか。を最終目標として、日英語の形容詞化現象に焦点を当てて、そのメカニズムを明らかにするものである。形容詞化表現と基の表現の共有する中核構造は、一般原理に従って統語機構で構築される。一方、語形の加工は形態機構で行われ、語が組織的に生成される。提示されるメカニズムは、広範なデータと新たな手法を用いて統計的に実証される。本提案は、語彙部門で利用可能な情報、および形態・統語の相互関係を厳しく制約する故に、子供が短期間に語彙を獲得することを可能にする言語能力の解明に重要な寄与をなすことができる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to reveal the morphological mechanism and its relation to syntactic mechanism by showing the system which regularly generates a variety of English and Japanese adjectives. After classifying the similarities and differences of English and Japanese adjectival derivatives and compounds based on extensive observation of them, I have proposed relevant models on the adjectival system: the model of “well-distributed word formation,” which optimally distributes each type of semantic, morphological, and syntactic information to each relevant grammatical module, and a “dynamic model of word formation,” which holds that creative word formation which productively coins complex words in syntactic/discursive environments may relax restrictions on morphosyntactic operations to expand morphological potential.

研究分野：形態論

キーワード：形容詞化 hapax 創造性 反語彙主義 分散形態論

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

形態的情報と統語的情報の相互作用の仕組みに関する研究は、生成理論の研究で重要な分野を占めている。とりわけ、「派生語や複合語といった複雑語は文法のどのレベルで作られるか」という難題に、従来多くの研究者が取り組んできた。この課題に対するこれまでの提案は、「語形成はすべて語彙部門で行われると主張する「語彙主義」と、主要な語形成プロセスは統語部門で行われるとする「反語彙主義」に大別される。本研究者は、過去十数年間に渡っての立場から英語の複雑語の諸特徴を明らかにし、関連する理論的分析を提案してきた。提案した分析をさらに発展させるためには、英語の複雑語の新たな側面の解明と、対応する日本語の仕組みの解明が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、子供による言語の獲得、とりわけ語彙の獲得の説明 - 子供が短期間に大量の語を獲得できるのはなぜか を最終目標として、日英語の形容詞化現象に焦点を当てて、そのメカニズムを明らかにするものである。提示されるメカニズムは、広範なデータと新たな手法を用いて統計的に実証される。本提案は、語彙部門で利用可能な情報、及び形態 統語の相互関係を厳しく制約するものである故に、子供が短期間に語彙を獲得することを可能にする言語能力の解明に重要な寄与をなすことができる。

3. 研究の方法

下記 - 調の調査によって形容詞化の創造的・普遍的側面を浮き彫りにするとともに、の調査によって形容詞化の多様性を示す。大規模コーパスに見出される日英語の形容詞形 hapax legomenon ある資料で1度のみ用いられる語を調査することによって、形容詞化表現の創造的な側面を明らかにする。収集された日英語の形容詞化の語形を精査することにより、語形決定の規則性を明らかにする。形容詞化に関する日英語の句の包摂語の内部に句が生起すること および「語の内部要素と外部要素の結合」の事例を収集・分析することによって、形容詞化の主要なプロセスは、談話的文脈に依存して統語機構で行われることを示す。日英語の句の包摂及び語境界を越えた要素間の結合が、どのような場合可能か、形態統語的、意味機能的、音韻的決定要因を調査した後で、日英語の共通点及び相違点を洗い出し、それらの根源を説明する。

4. 研究成果

本研究の主要な研究成果として、本研究と密接に関わる3つの論文及び1つの研究発表を公表し、併せて本研究と関連する2つの論文および1つの研究発表を公表した。各研究の骨子は以下の通りである。

(1) [Review] “*The Syntax of Roots and the Roots of Syntax*, ed. by Artemis Alexiadou et al., Oxford University Press, 2014”

分散形態論を中心とする反語彙主義の立場から書かれた対象本に対して、その概要を紹介し、論評を加える。具体的には、大規模コーパスから得られる豊富なデータを使用して、反語彙主義の各システムの長所及び短所を例証した後、システムの改善点を示唆する。すなわち、(i) 後期挿入 (late insertion) を保持すべきであること、(ii) 非合成性の領域に関して生じる「板ばさみ」に対して、文法化 (grammaticalization) 的見方を適応すること、および (iii) フェーズに基づく語形成に対して階層的のみならず線状性も考慮に入れるべきことを示唆する。

(2) “Narrow Productivity, Competition, and Blocking in Word Formation”

本稿の目的は、形態素間の親近性にどのような規則性が認められるか、そしてそのことが語形成やメンタルレキシコンの構成にどのような影響を与えるかを明らかにすることにある。派生語の hapax 性 (頻度が1であること) と形態素間の親近性に着目して、派生語の生産性の測定法を提案する。この測定法に基づき各種の英語接尾辞付加の生産値を算出する。調査結果は、分散形態論モデルの基本仮説 競合と阻止による語彙挿入 を実証する。具体的には、X-able の基体形に対する生産値は、-ity (0.459)、-ness (0.211)、-cy (0) であることから、X-able 形に対しては通常 -ity が勝者となり、ライバル接辞は阻止される。

(3) “An Analysis of Self-compounds within an Antilexicalism Framework”

統語論と形態論の組織的な相互関係を解明することは、生成言語学における重要な課題の一つである。相互関係に係る代表的な現象が形容詞化であり、その中で self 複合語形成に焦点を当てる。本研究の目的は、大規模コーパスから抽出された self-複合語を詳細に分析することによって、同複合語の統語的・形態的・意味的特性を明らかにした後で、反語彙主義の観点からこれらの特性を原理的・統一的に説明することにある。具体的には、形態的・統語的・意味的特性の違いによって2種類の self 複合語に区分し、これらの違いが各々の統語的階層構造から導かれることを示す。次に、同統語構造が形態部門に送られて、語彙挿入、合併 (merger)、削除 (impoverishment) などの形態的操作を受けて self 複合語が加工される過程を明らかにする。

(4) “An Analysis of Deverbal Adjectivization in the Framework of Distributed Morphology”
本稿の目的は、統語論と形態論の最適なバランスと相互作用を追究することにある。すなわち、大規模コーパスから抽出される日英語の動詞由来形容詞化の統語的・形態的特性を明らかにした後で、分散形態論に基づいて同特性群を統一的に説明する。具体的には、形容詞化接辞（例えば -ive/-的）を2種類に分類し、両形容詞類の対比的諸特性を各統語構造の結果として導く。形態部門で再調整を受けた構造の終端節点に、形容詞化接辞が正しく挿入される。より具体的には、内在的素性（[property][modal]）、認可環境（*a*）、基体の形式・素性（*v*, X-ate, [Latinize]）の挿入条件に従って -ive が挿入され、ライバル接辞の付加を阻止する。

(5) 関連研究

“Discursive Morphological Extension: Agentive and 'Unagentive' Derivatives in English and Japanese”

本発表の目的は、形態論的可能性を拡大するプロセスの本質を解明することにある。具体的には、大規模コーパスから抽出される日英語の動作主及び被動作主派生名詞（例えば employer, employee）を詳細に分析することによって、複雑語の意味的・機能的・形式的拡張の諸相を明らかにした後で、「文法化」(grammaticalization) 理論への理論的含意を示す。

“An Analysis of Deadjectival Nominalization: A DM-Theoretic View”

日本語の形容詞由来名詞化（例えば、怠惰さ）の観点から、分散形態論モデル 適正に分配された語形成 を確証する。一定の基準に従って区分された2種類の名詞化の統語構造が、両名詞類の対比的な特性群を説明する。形態部門に送られた統語構造は再調整される。すなわち、束縛形態素の挿入が形態操作（例えば、合併 (merger)）を誘発し、語形を積極的に構築する。最後に、形式化された接辞の記載項に従って名詞化接辞が規則的に選択されて、名詞形が具現される。

“Grammaticalization in Derivational Morphology: Verification of the Process by Innovative Derivatives”

日英語の刷新的な動詞由来名詞表現及び動詞由来形容詞表現に関する、豊富なデータに基づき、両表現の意味的・形態統語的特性を明らかにする。次に上記の観察に基づいて、刷新的な名詞化及び形容詞化の本質について、「文法化」の観点から統一的に説明する。具体的には、意味的・機能的・形態的拡張が、文脈的圧力の下で不断に行われて、再範疇化によって名詞表現および形容詞表現を創造することを示す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 森田順也	4. 巻 1
2. 論文標題 Narrow Productivity, Competition, and Blocking in Word Formation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the Third International Conference on Computational Linguistics in Bulgaria	6. 最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://creativecommons.org/licenses/by/4.0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 森田順也	4. 巻 34:1
2. 論文標題 Review:Artemis Alexiadou et al. (eds.), The Syntax of Roots and the Roots of Syntax, Oxford University Press, 2014, xiii+333pp.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森田順也	4. 巻 1
2. 論文標題 An Analysis of Deadjectival Nominalization: A DM-Theoretic View	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of WECOL 2018	6. 最初と最後の頁 130-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 森田順也	4. 巻 1
2. 論文標題 Grammaticalization in Derivational Morphology: Verification of the Process by Innovative Derivatives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of Second International Workshop on Resources and Tools for Derivational Morphology	6. 最初と最後の頁 121-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 森田順也	4. 巻 16
2. 論文標題 An Analysis of Self-compounds within an Antilexicalism Framework	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金城学院大学論集（人文科学編）	6. 最初と最後の頁 110-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 6件）

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 Narrow Productivity, Competition, and Blocking in Word Formation
3. 学会等名 the Third International Conference on Computational Linguistics in Bulgaria（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 An Analysis of Self-compounds within an Antilexicalism Framework
3. 学会等名 5th International Conference on Language and Literature（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 An Analysis of Deadjectival Nominalization: A DM-theoretic View
3. 学会等名 West Coast Conference on Linguistics 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 Discursive Morphological Extension: Agentive and 'Unagentive' Derivatives in English and Japanese
3. 学会等名 5th International Conference on Grammar and Text (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 An analysis of Deverbal Adjectivization in the Framework of Distributed Morphology
3. 学会等名 3rd Budapest Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森田順也
2. 発表標題 Grammaticalization in Derivational Morphology: Verification of the Process by Innovative Derivatives
3. 学会等名 Second International Workshop on Resources and Tools for Derivational Morphology (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----